

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 4 月 13 日現在

機関番号：23903

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2016

課題番号：26861892

研究課題名(和文) 2型糖尿病患者の首尾一貫感を高めるための患者教育プログラムの作成と検証

研究課題名(英文) Development and Validation of a Group Educational Program to Enhance the Sense of Coherence in Type 2 Diabetic Patients

研究代表者

小田嶋 裕輝(Odajima, Yuki)

名古屋市立大学・看護学部・講師

研究者番号：20707567

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、2型糖尿病患者のセルフケア行動や心理的負担感に関連する要因の1つとして近年着目されている首尾一貫感に焦点をあて、看護師が2型糖尿病患者の首尾一貫感を改善することを目的とした、国内外で初となる、SOC集団教育プログラムを開発し、その効果を準無作為化比較試験により検証した。その結果、群間比較で介入群の首尾一貫感が有意に改善した。群内比較では、介入群内でのみ首尾一貫感とその下位概念の把握可能感と処理可能感、糖尿病による心理的負担感が改善した。本プログラムは、1回30分、計4回と先行研究に比して少ない介入回数と時間で首尾一貫感を改善する効果を示し、本プログラムの有効性を確認できた。

研究成果の概要(英文)：This study aims to develop a group educational program to enhance SOC in these patients and to verify its effectiveness. An individual support method to enhance SOC was derived from two analyses: a literature review and individual interviews with nurses. The results of the literature review and individual interviews were integrated, and contents were extracted to support enhancement of comprehensibility, manageability, and meaningfulness. The effectiveness of this program was validated by a quasi-randomized controlled clinical trial. Participants were 40 patients who were receiving a diabetes education hospitalization program in a general hospital. The SOC score significantly improved in the intervention group compared with the control group. There were no differences between groups in the subscale and PAID scores. An effective group intervention for enhancing SOC has been developed.

研究分野：臨床看護学

キーワード：2型糖尿病 首尾一貫感 教育プログラム

1. 研究開始当初の背景

近年、患者の治療への向き合い方や疾患経験の意味づけに関連するものの見方として、首尾一貫感が着目されている。先行研究は、首尾一貫感の高さとセルフケア行動の遵守を介したヘモグロビン A1c との関連を報告したものや(Cohen et al., 2004)、首尾一貫感と糖尿病に伴う心理的負担感との関連を報告したものがある(Leksell et al., 2005)。また、先行研究は、首尾一貫感、プログラムによる系統的な介入によって高まることを明らかにしている(Marieke Van et al., 2012; Forsberg et al., 2010; Langeland et al., 2006)。また、患者を対象にした研究では、精神疾患患者や、がん患者を対象にした研究で首尾一貫感の改善を報告したものがある(Delbar et al., 2001; Haoda et al., 2011)。しかし、2 型糖尿病患者を対象にした首尾一貫感の向上を目指した研究は行われていない。

2. 研究の目的

2 型糖尿病患者の首尾一貫感を高める集団教育プログラム(以下、SOC 集団教育プログラム)を開発し、その効果を検証することとした。

3. 研究の方法

本研究は大きく 2 つの方法によって行った。

(1) SOC 集団教育プログラムの開発

文献検討と糖尿病看護に携わる看護師へのインタビュー結果を基に、首尾一貫感を高める看護師の支援内容を抽出し、首尾一貫感の下位概念に即して抽出した上で、支援内容の構造化を図った。構造化した結果を基に SOC 集団教育プログラムを作成した。開発したプログラム内容は専門職者会議により検討し、適切性を確保した。

(2) SOC 集団教育プログラムの検証

開発した SOC 集団教育プログラムによる患者教育を行い、その効果を検証した。研究デザインは準無作為化比較試験で行った。介入群に先立って対照群のデータ収集を行う。次に、介入群のデータ収集を行った。介入群は対照群のデータ収集完了後に行う。最後に、両群から得られたデータを解析する。介入群と対照群のサンプル数は、先行研究を踏まえて計算し、糖尿病教育入院目的で総合病院に入院した 2 型糖尿病患者約 40 名とした。分析方法は、ITT 分析を行った。群内比較は対応のある t 検定を行った。群間比較はベースライン値を考慮した、繰り返しのある 2 元配置共分散分析を行った。データ収集は、自記式質問紙調査を入院時と退院時に行った。主要評価指標は、首尾一貫感尺度日本語版 13

項目 7 件法を用いた。得点が高いほど首尾一貫感が高いと評価する。副次的評価指標は、糖尿病問題領域質問票(以下、PAID)20 項目 5 件法を用いた。得点が高いほど糖尿病による心理的負担感が重いと評価する。他に、参加者からの評価を質的に得た。また、参考値として、早朝空腹時血糖値と BMI の値を得た。

4. 研究成果

(1) SOC 集団教育プログラムの構造

文献検討と糖尿病看護に携わる看護師へのインタビュー結果を基に、2 型糖尿病患者の首尾一貫感を高める支援内容の構造化を図った。首尾一貫感を高める支援の中核である、把握可能感を高める支援が、処理可能感を高める支援に影響し、処理可能感を高める支援が有意味感を高める支援に影響し、有意味感を高める支援が把握可能感や処理可能感を高める支援に影響するという形で構造化された。

(2) SOC 集団教育プログラムの内容

2 型糖尿病患者の首尾一貫感を高める支援内容の構造化を踏まえ、開発した SOC 集団教育プログラムの内容は以下の通りである。

教育目的

2 型糖尿病から生じる様々な出来事への向き合い方としての首尾一貫感を高めることである。

実施者

糖尿病看護経験が 3 年以上の看護師である。

教育対象

糖尿病教育入院中の 20 歳以上の 2 型糖尿病患者である。

教育方法

介入回数 4 回、1 回 30 分で、2 名以上の集団教育により行う。本プログラムは通常教育入院プログラムに付加する形で、糖尿病教育が行われる教室で行う。

教育内容

本プログラムの教育目標は、2 型糖尿病患者の首尾一貫感を高める支援内容の構造化を基に作成した。作成したプログラムの教育内容の概要は次の通りである。1 回目は把握可能感と有意味感、2 回目は把握可能感、3 回目と 4 回目は処理可能感を高める教育目標を掲げた。1 週目に 1・2 回目を行い、2 週目に 3・4 回目を行う。このプログラムは、支援者間によって協働する、看護師間や他職種間で支援方針の統一を図るという体制によって支えられることが必要である。

教材

教材は、首尾一貫感の概念理解を深めるための「教育セミナー配布資料」と、過去から現在の生活を振り返り未来への展望を見出すための「生活の振り返りシート」を用いて行う。

運営方法

各回の内容は教育指導案に基づき行う。

プログラムの運営者は患者同士の対話型のグループセッションを中心にする役割を担う。実施者は患者同士の対話が円滑に進むようにファシリテートする。

実施場所

対象施設内の糖尿病教室が行われる個室とする。

患者の費用負担

SOC 集団教育プログラムは通常の教育入院プログラムに付加して行うものであり、患者が負担する費用はない。

(3) SOC 集団教育プログラムの検証結果

教育入院患者は 48 名であった。除外したのは 6 名で、参加辞退によるものであった。よって、42 名を準無作為化した。介入群に 21 名、対照群に 21 名を割り付けた。脱落者は、対照群が 2 名で参加辞退によるものであった。よって、介入群 21 名、対照群 19 名を解析した。

研究対象とした集団は、年齢は 60 歳前後で男女比が半々であり、半数以上が職業を有していて、肥満傾向にある、血糖コントロールが不良な集団であった。糖尿病薬の有無、有意味感得点に有意差がみられた。年齢・性別・職業・早朝空腹時血糖値・HbA1c など、多くの項目で有意差は認められなかった。群間比較の結果として、SOC 集団教育プログラムの実施により、首尾一貫感尺度得点が有意に改善した。しかし、首尾一貫感尺度の下位尺度の把握可能感得点、処理可能感得点、有意味感得点では有意な群間差は見られなかった。PAID 得点も同様に有意差は見られなかった。早朝空腹時血糖値・BMI も同様に差は認められなかった。群内比較の結果として、介入群内では、首尾一貫感尺度得点と、把握可能感得点、処理可能感得点が有意に改善した。しかし、有意味感得点の改善はなかった。PAID 得点には有意に改善した。また、空腹時血糖値、BMI も有意に改善した。対照群内で有意な変化が認められたのは、空腹時血糖値、BMI のみであった。

本研究の限界は 3 つある。1 施設における介入結果であり、施設で実施している糖尿病教育入院の内容による影響を受ける可能性がある。準無作為化比較試験により介入効果を検証したが、属性の違いによるバイアスは完全にコントロールできたとはいえない。介入効果は、介入直後で測定したが、介入後の長期的効果は検証できていない。

今後の展望として以下がある。教育目標や教育内容に自己の療養行動の意味付けなど有意味感を高める内容を明確に掲げて支援内容を強化する。通常教育入院プログラムに本プログラムを取り入れて有用性を高めていく。対象施設を広げ、無作為化比較試験により、介入効果を検証し、エビデンスを高めていく。また、長期的効果の検証をする。

SOC 集団教育プログラムは、患者の病気に至った事実や、その時々^々の社会的事実や、思

いを時系列で想起してもらいながら、現在の自分の生活を見つめ直し、今後の生活を見通すことを支援するプログラムである。この SOC 集団教育プログラムは、病棟や外来で組み入れることで活用できる。具体的には、通常の糖尿病教育入院での教育課程の中に SOC 集団教育プログラムを実施するための時間と場所を確保することにより、糖尿病教育入院での 2 型糖尿病患者への看護実践の効果を高めていくことができると考える。また、糖尿病外来で、SOC 集団教育プログラムに基づく企画の参加者を募り、集団の力を活用しながら患者に 2 型糖尿病との向き合い方を見直してもらうことで、外来での 2 型糖尿病患者への看護実践の効果を高めていくことができると考える。SOC 集団教育プログラムを通常教育入院プログラムや糖尿病外来で取り入れる際も、本プログラムが 1 回 30 分、計 4 回より構成されていることから、病棟にとって組み入れやすく、糖尿病外来に通院する患者にとっては時間的負担が少なく参加できるため導入しやすいと考えられる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 2 件)

小田嶋裕輝、河原田まり子、2 型糖尿病患者の首尾一貫感を高めると認識している支援内容の検討、日本糖尿病教育・看護学会雑誌 19 巻 2 号 pp.11-19, 2015

小田嶋裕輝、河原田まり子、患者の首尾一貫感を改善する介入方法に関する文献的考察、SCU Journal of Design & Nursing 9 巻 1 号, pp.15-23, 2015

[学会発表](計 4 件)

Odajima Y, Developing an Educational Program to Enhance Sense of Coherence in Patients with Diabetes Mellitus Type 2, 19th East Asian Forum of Nursing Scholars、幕張メッセ(幕張市)、2016 年 3 月 14 日・15 日

小田嶋裕輝、河原田まり子、2 型糖尿病患者の首尾一貫感を高めるための支援内容 - 把握可能感に焦点を当てて -、第 34 回日本看護科学学会学術集会、名古屋国際会議場(名古屋市)、2014 年 11 月 29 日・30 日

小田嶋裕輝、2 型糖尿病患者の首尾一貫感を高めるための支援内容 - 処理可能感に焦点を当てて -、日本看護技術学会第 13 回学術集会、京都テレサ(京都市)、2014 年 11 月 22 日・23 日

小田嶋裕輝、河原田まり子、2 型糖尿病患者の首尾一貫感を高めるための支援

内容 - 有意味感に焦点を当てて -、第 19
回日本糖尿病教育・看護学会学術集会、
長良川国際会議場（岐阜市）、2014 年 9
月 20 日・21 日

〔図書〕（計 0 件）

〔産業財産権〕

出願状況（計 0 件）

取得状況（計 0 件）

6 . 研究組織

(1) 研究代表者

小田嶋 裕輝（ODAJIMA, YUKI）
名古屋市立大学・看護学部・講師
研究者番号：20707567